

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2014-夏

No.75

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



「讃岐路」志度寺の塔 遠望 1995年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

ドロットニングホルムの王領地 (スウェーデン王国)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ

©UNESCO

首都ストックホルムの西、メーラレン湖のワーベン島にある、ドロットニングホルムとはスウェーデン語で「王妃の小島」という意味である。ヴェルサイユ宮殿を手本に十七世紀に建てられた優美な宮殿で、現国王一家の住まいでもある。宮殿内には劇場、ゴシック様式の塔、当時流行した中国風別荘などがあり、十八世紀建築の典型が見られる。なかでも、湖のほとりに広がる庭園に一七七六年に建てられた宮廷劇場は、二〇〇年後の今でも使用できる珍しい劇場である。

(一九九一年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

巻頭言

日本らしさとは

どの国でも、独特の物がある。それでは、他の国と違う組織を作る必要はないからである。アメリカ合衆国などは、一応は各州の独立性を認めているが、共通項を作って、一つの連合体を作っている。

昭和三十五年(一九六〇)に最初にアメリカに行って、車の免許をとり、北の端からパナマ運河の近くまでドライブしたことがある。カリフォルニア州に入る時、一種の税関のようなものがあった。そこで、それまで走ってきたオレゴン州の土のついた野菜、その他を持っているか、と聞かれた時は驚いた。やはり、州はステイト、「国家」という意味もある。オレゴンもカリフォルニアもそれなりに独立国なのだ、と改めて印象づけられた。オレゴン州の土のついた野菜がいけないのなら、オレゴン州の土の上を走っていた車はどうなのか、と言いたかったが、そんなことを言ったら、車輪を消毒する、などと言われるといけないから黙っていた。

それでもアメリカ合衆国の場合は、言語は同じ英語だから、一つになることは判らないでもないが、中米では、どこも同じスペイン語なのに、その発展過程が違うために、幾つもの違う国になっている。

そういう意味で日本という国の特殊性を考え

ると、島国であったために、大陸とは常に一定の距離があつて、空間的にも政治、文化の面でも特殊性が存在していたことは意味がある。特に徳川時代の江戸幕府の存在は、日本が一つの全体という意識を育てるのに、役だったような気がする。

幕府は大名が領地の君主として絶対力を持たないように、参勤交代という制度で、大名を江戸と任地の半分ずついることにした。大名たちは江戸と任地の間を往復せねばならないから、東海道などという街道ができ、それを通じて物と人と文化の交流が行われ、そのうちに、大陸とは違う組織としての一体感が人々の心の中に育っていった。

また大名と領地の関係を深くなるのを避けるために、お国替えということをして、任地を替えることをした。その結果、元来が開拓者であり、地主であった大名の部下の侍たちも、サラリーマン的になってゆき、それが明治のサラリーマン官吏による近代化を実施する場合の、前提条件を作っていた。

しかも、仙台の伊達とか、萩の毛利、鹿児島、津の島津のような、江戸からみて辺地の大名は、うっかりお国替えなどをしようとして、反乱をおこされたりすると、征伐するのは困難である。

反乱に便乗する大名たちが全国的に出てくる恐れがあつて、彼らは徳川時代を通じて、同じ領地を支配し続けた。

その結果、特色ある地方文化が育ったことは否めない。それだけでなく、日本は南北に長く、多くの山に隔てられて、気候も風土も特色のある地方から成り立っている。一つの全体という意識が育つと同時に、その地方性も発達した。北海道と沖縄が、日本という全体の一部という認識が薄弱なのは、ここを大名が支配したのでなく、参勤交代もなく、ここの地方文化が他の地方に影響を与えなかったためであろう。

そういう偶然が、十九世紀に西欧の近代文明と接した時に役だった。

イギリスをドライブして安宿に泊まった時に、宿帳に名前や国籍などを書くのだが、彼らは国籍の欄にブリテン、スコットランド、ウェールズなどと書いていた。彼らにとって、出身地はアメリカと違った意味で国なのだ。それと似たことはフランスにも、ドイツにも言えて、しかもこれらの国が、世界で最初の近代国家になっていたことを思えば、偶然ではあるが、日本は近代国家になりやすい文明を育てていたことになる。その西でもなく東でもない文明が特色なのであろう。



日本芸術院長
三浦朱門
(みづらしゅもん)

(撮影:大坪尚人)

風よ、吹け！気仙沼の復興に向けて

港町・気仙沼。昭和四年の大火後に復興街区に登場した昭和ロマンの面影を残す建築群。東日本大震災によって壊滅的な打撃を受けたながらも、人々の熱意によって再建、復活を目指している。

復興プロジェクト

宮城県北東端の三陸リアス式海岸南部に位置する気仙沼市。カツオ、サンマ、フカヒレなど食彩豊かな港町です。未曾有の大被害をもたらした東日本大震災から三年が過ぎましたが、市内外には今なお一人人近い市民が仮設住宅等での生活を余儀なくされ、生活再建への道程はまだ長い感じます。道路や土地

の基盤整備は急ピッチで進められており、地場産業である水産業を中心に徐々に復旧し、震災前の状況のように回復の兆しが見えてきました。このような中で町の歴史文化の復興を果たそうと二つのプロジェクトが進行しています。その一つは「内湾地区の国登録文化財群の復興プロジェクト」です。内湾は気仙沼港の最奥部に位置する船溜まりで、かつて帆船時代に沖に吹く強い北西風の「ナライ」の風を待つて出帆した風待ちの港です。この地区は昭和四年（一九二九）に起きた大火後の復興街区で、当時最新の技術と建築意匠に凝った造りの多様な建物が軒を連ね、代表的な建物は国登録文化財となっていました。当時の繁栄ぶりを感じさせる町並みが震災前にはあったのです。内湾で約六メートルの津波を受け、多くの建物は損壊し、国登録文化財も七棟すべて被災。酒釀造元の男山本店店舗は、一、二階がダルマ落しのように倒壊し、三階部分が残存。同じく角星店



平成25年9月に開催した「文化遺産とまち、ひと、復興」宮城大会（虎舞の披露。奥は男山本店店舗）

きた大火後の復興街区で、当時最新の技術と建築意匠に凝った造りの多様な建物が軒を連ね、代表的な建物は国登録文化財となっていました。当時の繁栄ぶりを感じさせる町並みが震災前にはあったのです。内湾で約六メートルの津波を受け、多くの建物は損壊し、国登録文化財も七棟すべて被災。酒釀造元の男山本店店舗は、一、二階がダルマ落しのように倒壊し、三階部分が残存。同じく角星店

風待ちの挑戦

舗は、一階店舗が流され二階部分のみ残存（旧酒造工場は流失）。武山米店の一階店舗は浸水し外観が損壊。陶器店の三事堂ささ木、魚問屋の小野健商店土蔵、千田家住宅も浸水し損壊するなど、大きな被害を受けたながらも残されました。このような状況の中で、懐かしい町の記憶を留める建物を修復再建すること、人々の心の拠りどころとなり、復興まちづくりに寄与できるのではないかと思います。その頃にはガレキ撤去や被災建物の公費解体が進んでおり、国登録文化財も解体が保存かの瀬戸際で所有者の多くが動揺していました。まずは建物の保全をお願いしなければならぬと奮起し、所有者と話し合いながら、市の関係部署とも解体しないよう粘り強く交渉を続けました。

平成二十四年（二〇一二）五月、震災前から活動していた風待ち研究会が母体となり、地元の建築士、行政の有志、専門家と協力し、なによりも文化財所有者全員の賛同を得て、気仙沼風待ち復興検討会を立ち上げ、活動を始めました。公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団、ワールド・モニュメント財団などの連携によるSOC（東日本大震災被災文化財復旧支援事業）の支援をいただき、応急措置を始



気仙沼市教育委員会
生涯学習課
幡野寛治
(Hirofumi Hattori)

※Save Our Culture：心を救う、文化で救う

被災前の尾形家住宅



被災した尾形家住宅

被災前の風待ちの町並み(中央は角星店舗)



角星店舗の曳き家作業

めることができました。現在、建物の補強や曳き家、シート掛けて現地で養生している段階です。内湾地区は高い防潮堤の建設や、地盤沈下した土地の盛土かさ上げ、土地区画整理事業が計画されており、本格的な保存修復工事に着手できない部分もあります。その間、検討会では、内陸部と気仙沼を結び、歴史文化遺産を巡り、風待ちの魅力を多くの方々に知ってもらうためのモニターツアーやパネル展の開催、保存活用計画の策定、新たな登録文化財を目指す活動も続けています。昨年度には、文化庁や宮城県等と協力し、宮城と東京で「文化遺産とまち、ひと、復興」イベントを開催、文化財の復興状況を発信するとともに、継続的な支援を広く呼びかける機会をいただきました。

受け継いできたコトを守り伝える

もう一つのプロジェクト。小々沙（こさし）という小漁村に

茅葺き屋根の映える尾形家住宅がありました。文化七年（一八一〇）に建てられ、築二百年のカツオ漁網元の古民家です。津波で流されましたが茅葺き屋根や部材は残りました。震災から一ヵ月後、工学院大学を中心に「気仙沼・尾形家修復保存会」ができ、約一年かけてガレキの中から部材や家財道具、古文書等の貴重な文化財を救出しました。部材はそのまま現地に放置しておくとしてしまおうので、山梨県塩山市にある専門業者に運ばれ、公益財団法人日本ナショナルトラストやSOCなどの支援により、部材の詳細調査、一部部材の修理、部材の仮組作業が行われています。現地から救出された家財道具や古文書などは、国立歴史民俗博物館などの協力により整理作業が続けています。このプロジェクトは、尾形家住宅を再び気仙沼に再建し、地域に根ざした文化財として活用していくことを目指すものです。気仙沼の被災した歴史文化の完全な復興までには、まだまだ時間と費用が必要な状態です。建物を単に

モノとして残すわけではありません。町の歴史文化、人々の生活や息づかい、記憶や思いも一緒に詰め込まれています。復興のシンボルとして、人々を元気づけ、そして未来の気仙沼のために受け継いでいきたいと思っています。

最後にこれまで気仙沼の歴史文化の復興にご支援ご協力をいただきました多くの方々へ改めて心から深謝いたしますとともに、今後とも息の長いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

気仙沼市出身。平成四年、東北学院大学文学部史学科卒業後、気仙沼市役所勤務。現在、教育委員会生涯学習課で文化財と文化芸術を担当している。気仙沼風待ち復興検討会の事務局員でもある。

「上野の杜」が世界に向けた

文化の発信地となる日

東京藝術大学を筆頭に美術館、博物館、教育研究機関など

多くの文化・芸術関連の施設が集う上野の杜。ここは世界に誇る

文化と芸術資源の宝庫だ。その上野の杜が今、大変貌を遂げようとしている。



東京藝術大学
教授・理事
北郷 悟
(きたがひ りょうへい)

プロムナード

私の職場である東京藝術大学の研究室まで上野駅から公園の中を十分程歩く。駅前の横断歩道を渡ると目前に「東京文化会館」、建築家・前川國男のボリウムのあるデザインの大きな音楽ホールだ。その向かいにある「国立西洋美術館」の前庭にロダンの「カレールの市民」や「地獄の門」が見える。この建物は建築としても空間性を重んじたシンブルなフォルムで人気は高い。ル・コルビジェ設計で世界遺産としての声が上がる。大きな広場に出ると奥正面に「恩賜上野動物園」、年間三百八十三万人の来場者を誇る。右側遠景には重厚な和風様式を持つ「東京国立博物館」が見える。日本と東洋の文化財を収蔵し大規模な展示を行っている。シロナガスクジラの実物大模型が待ちかまえる「国立科学博物館」への看板を横目に歩き噴水をめざすと森の中にリニユールを終えた赤煉瓦低層デザイン「東京都美術館」が現れる。大広場を横切り、再び公孫樹や櫟の大木に囲まれたプロムナードに入る。道を挟むように東京



空から見た上野恩賜公園。

- ①上野駅 ②東京文化会館 ③国立西洋美術館 ④恩賜上野動物園 ⑤東京国立博物館
⑥国立科学博物館 ⑦東京都美術館 ⑧黒田記念館 ⑨国際子ども図書館
⑩東京藝術大学 ⑪東京文化財研究所 ⑫東叡山寛永寺 ⑬不忍池 ⑭上野の森美術館

上野台地の今昔 ―文化の杜―

上野の山は上野恩賜公園といわれ、北区の方面から伸びる標高二十三メートルほどの上野台地である。不忍通りの谷間を挟んで東京大学のある本郷台地が並行に延び、上野の山のふもとを上野駅をはさんで不忍口のアメ横等の商店街と入谷口の商店街が東と南に共に賑わいをみせている。

縄文時代では気温も海面の水位も高く上野台地も本郷台地もニコライ堂がある御茶ノ水あたりまで東京湾の入り江であった。二つの台地の谷間となる不忍通り周辺には不忍の池まで藍染川(谷田川)という河川もあったようで、水田も広がる豊かな生活環境が存在したことが想像できる。

江戸時代になると上野の山は、將軍家の菩提寺(東叡山寛永寺)として、ふもとの街は寺町として下町文化が栄えている。

明治時代に入ると近代化と西洋芸術の波が押し寄せ、東京大学の前身でもある工部大学校の付属である「工部美術学校」が明治九年(一八七六)に設立されたが、西洋の近代文化と技術を育成する目的で六年間だけの運営だった。画学科をアントニオ・フォンタネージ(一八一八―一八八二)、彫刻科をヴィンチェンツォ・ラゲーザ(一八四一―一九二七)、装飾圖案をヴィンチェンツォ・カペレッティ(一八四三―一八八七)が担当するなど、いわゆるお雇い外国人教師による日本最初の美術教育が行われた。ちなみに彼らはいずれもイタリア人だった。

明治二十年になると「東京美術学校」が設置され、二年後に現在の上野の山に移転

東京藝術大学の文化・芸術の資源

し授業を開始した。このように「上野の山」は、明治五年に東京国立博物館が、明治十年には教育博物館として現在の国立科学博物館が設置された。昭和三十四年に国立西洋美術館が設立される等、今では、「上野の山」は二十五機関にも及ぶ芸術文化機関がおかれる上野「文化の杜」となったのである。かつて明治十年の西南戦争開戦の中、日本で最初の第一回国勲業博覧会が上野の杜で行われ、社会へ発信する先進的な場所としてスタートしている。

前述のようにイタリア人教師による西洋美術を基本とした日本最初の工部美術学校は六年間で閉校となった。しかし、教育機関として近代化の歩みだしの役目をかろうじて果たしたことは事実である。



大正11年(1922)に東京府が主催した上野の山で開かれた平和記念東京博覧会の模様(浦野銀次郎筆)

明治二十年に日本の伝統美術振興をめざす岡倉天心とフェノロサの理念によって東京美術学校が開校したのである。その後、時の流れの中で幾多の紆余曲折を経て東京音楽学校と包括し、現在の東京藝術大学が誕生したのは一九四九年のことである。その後も時代のニーズに応え、映像研究科を設置するなど東京藝術大学は常に意欲的な課題に取り組み、近世百二十七年間の日本の芸術文化の礎を築いてきたのである。また社会への発表と実験の場としてのファクトリー機能を持つ大学美術館や音楽空間を可変できる奏楽堂があることは他大学とは違う特徴ともいえる。収蔵品による展覧会

や企画展では、空間を活かした展示ができる等成果は大きい。

美術館の収蔵品は国宝重要文化財等二万七千点、楽譜等音楽資料、建築図面等の貴重文書等を含めると十四万件以上に及ぶ。これら収蔵品をより活用するための大学としてアーカイブを中心とした新しい計画が着々と進んでいる。

この計画が実現した暁には、世界に誇る文化・芸術に関する情報の発信地に東京藝術大学は変貌する、と期待がもたれる。東京藝術大学の総合芸術アーカイブ・センターは、これまで保存されていた芸術資料を教育研究への普及と社会に向けた情報発信のための新しいシステムづくりを計画している。制作研究における実践的な経験の強みを活かした優れた情報やデジタル・データを活用した新しい「芸術資源」の位置付けは、最もベーシックでありながら「次世代に向けた資源開発」となっている。これらは大学単体でできる事ではなく機関同士の連携があつてはじめて生きてくるものと思われる。

日本は二〇二〇年に東京オリンピックとパリンピックの開催を契機として、上野の杜の芸術文化の各機関が連携をしてこの地を日本の文化芸術の拠点として整備し、魅力ある日本芸術のポテンシャルを発信する。そして、本物に触れていただくために海外からより多くの人を呼ぶことで日本の姿を伝える未来の上野恩賜公園を考えようという機運が高まっている。一方、ヨーロッパでは人類共通の財産といわれる「芸術」や「質の高い資料」をアーカイブし、全世界に公開し魅力を発信することで人々の知識と流通を盛んにする試みが進められている。このような国内外で進む「情報」の流れは、これからの日本の芸術や文化、社会の中での扱いにとっても大変重要な時期を

芸術情報の「新しいシルクロード」の誕生へ

質の高い芸術情報がリアルな姿で社会に配信されることはテレビに変わる情報社会の変革といえる。現在、東京藝術大学では、社会に開かれた大学として図書館を改築して「国際藝術図書館(仮称)」構想が進められている。これは、「IRCA」(International Resource Center of the Arts)・ライブラリーではなくリソースという言葉を使っているようにアーカイブそのものを「素材や資源」と見て新しい芸術を創出できるシステムの確立を意味している。

世界に日本の芸術文化を伝える役割は、二〇二〇年のオリンピックとパリンピックを契機に、「上野の杜」に点在する博物館、美術館等の芸術品と質の高い芸術情報、学術情報の連携協力の確立によって未来の日本全土、または全世界に向けたポータルサイトの構築と優れた情報環境となる事が望まれる。それが日本の「上野文化の杜」としてのポジションを切り開く大きな未来への入口となる事の期待は大きい。

はるかなる昔、シルクロードは東西の文物が行き交った交易の道であった。それはまた東西の異なる文化・芸術が行き交った道でもあった。シルクロードは広義には西はローマ、東は奈良を結ぶ歴史と文化の道といえよう。事実、古代日本はシルクロードの恩恵を享受していた。その一番の証左は正倉院の御物である。

二十一世紀の今日、かつてはシルクロードの東の終着点であった日本から世界にむけて新たな文化情報を発信したいと願っている。

「新しいシルクロード」の建設は今、始まったばかりである。

平成修理における

国宝平等院鳳凰堂

平安時代後期、末法思想の世にあつて貴族たちが憧れた「極楽浄土」の世界。京都・宇治に建立された平等院鳳凰堂は、この世の極楽浄土と称された。世界遺産となつた華麗な御堂は平成の修理を終えた。そして今……。



平成修理後の国宝平等院鳳凰堂(朝)



創建当時を彷彿させる金色に輝く鳳凰

新たな美の応答

この時点で修理前の鳳凰堂を思い出そうとする方は、理由をもったよほどの研究者か一握りの趣味人に違いない。

来院者は一様に美しさに酔い、カメラを構える。新しもの好きの拝観者も現在の姿を違和感なく受け止めていく。

正直、平安の焼成酸化鉄系の塗装であるならばもう少し明るめで、木口の黄土も白っぽいに違いない。今回の修理は、判明しうる創建時に最も近い姿であるとも言えるが、周囲の史跡名勝庭園の復元的整備との整合により、実際の外観は平安末から鎌倉期の状況に復元したものである。

小林秀雄は、美は沈黙という言葉を残すが、ここでは感嘆と同時に、憩い・遊興の場として、とたんに言葉が溢れ出る。現時こは言語と非言語の交響という空間が現出した現代の楽園といえる。あらためてドイッの哲学者ヴァイトゲンシュタイン（一八八九―一九五二）の「沈黙」は、整合的認識を担保する意味を持つ、と納得させられる。

平等院は古くから「極楽いぶかし久者は、宇治の御寺を礼へ」と謳われた空間。死後は自身にとってその時まで経験出来ないものであり回顧出来ない対

する。

実はこれらについての意見やコメントは、ネットを探しても殆ど触れられていない。修理自体への論評ももう少しあるかと考えてF A Q形式の冊子も用意していた。多くが落慶後の鳳凰堂を遙拝するばかりである。

鳳凰堂は、美しさを追求した建造物のため構造的にかなり無理をしている。通常の古建築の半分のスパンでの修理が必要となるし今回はその折り返し点での中規模修理である。

修理中、前回の昭和修理工人による落書きが土居葺きから見つかった。「何としよう みだの瓦を運んでも 足のだるさにかわりないない」「百年の嵐にたえて 鳳凰堂乃 すがたうつして 宇治乃川面よ」「かげの力のしつくいを ねってつかれて 今日も明日も」など。

美と宗教の関係を評価するには、修理の実際を無視して論ずることは出来ないようである。



昭和の修理工人が残した落書きの一部。昭和32年という年号が読み取れる

修理はいかにして行われたか

修理は、1、本瓦葺の全面葺き替え 2、丹土による外部塗装 3、建築装飾の金色復元 4、木部に

象である。つまりイメージが難しくビジュアライズしたものを検証することも出来ない、主観である。

昭和二十五年七月金閣寺放火事件で犯人の青年僧は、美に対する嫉妬とそこに来る有閑的な人への反感を動機にあげている。

美を鋭敏に掴み取る小林は『金閣焼亡』で、「倫理的でない美はない」といい、三島由紀夫は「美を現実の中で完結させたい」という。落慶後の鳳凰堂は、倫理とは異なる宗教的なものとそうでない凡聖同居的な、ある意味重層的な現代の報土とも言えるのではないだろうか。

小修理が中心で、保存のため建物下部まで塗装を行っている。

顔料の復旧にあわせ、斗拱木口部分の黄土塗り・瓦座の墨塗・扉を丹土塗に戻し、中堂隅の垂木先と翼廊垂木先のみ黄土塗りに復旧した。

修理前は、創建期の葺棟に使用された平安時代興福寺系瓦を使用していたが、平安時代後期の河内向山系文様・右回り二つ巴を中心にした六弁の蓮華文様を復元。瓦総数約五万点のうち約一五〇〇点の平安瓦を南側の妻と裳階背面にかためて葺きなおした。傷みのはげしい室町時代龍頭瓦二軀は複製を製作し現品は別置保存をしている。

金色になった鳳凰・露盤宝珠、軒先金物等も目を引くが、全て科学調査により創建当初の状態を確認した上でのことである。

金色になった鳳凰を見た女性が「有無を言わせない美しさ」と評し、「美しいものは何を施しても美しい」との感想を書き残している。

鳳凰堂は、創建以来昭和修理も含め屋根だけで五回、塗装では平安時代にすでに二度の修理が確認されている。

初期の大規模な修理は、創建から約五十年後の康和三（一一〇一）年で、その際、屋根が木瓦葺から総本瓦葺に変更されたと考えられる。その直後の文暦から続く修理や弘安年間の修理では翼廊貫の追加や屋根の葺替えも実施されている。

残されたサブ文化財

今回の修理は解体修理ではないため、鳳凰堂躯体構造自体の修正はできず、波打った軒線もこれまでのままである。瓦を外し終えた時には四寸（約十二センチ）ほど軒が上がったともいわれる。

屋根瓦を新しく葺くため、近世以降の敷平瓦を外し、木製の瓦座を厚くしつらえ軒平瓦の幅を薄くして対応した。軒丸瓦の大きさはほぼ同じため、屋根の傾斜が以前よりおおらかに見えるのはそのためである。次の修理はかなり深刻なものになると想像



中堂・南妻に平安の古瓦を集めて葺く



平等院 住職
神居文彰
(かみい ぶんしょう)

日本「筆」物語①

筆の発明がもたらしたもの

筆の発明によって絵画や書は飛躍的な発展を遂げたといえる。その歴史を繙くと、そこには「筆師」とよばれた人々の苦心と努力が浮上する……。

筆のルーツを見る

筆墨硯紙を文房四宝といいますが、筆が必ずその筆頭にくるのは、それが最初に発明されたからだというのは、まず間違いないでしょう。

墨も紙もない時代、古代の人々は細い竹簡に漆で文字を記していました。墨は水没すると飛んでしましますが、固まった漆は強固で消えず、遠い古代の人々の暮しを私たちに教えてくれます。

秦の將軍の蒙恬（？～B・C二二〇）が筆の始祖ともいわれていますが、これも秦が剣とペンで、つまり武力と筆で書かれた法律で広大な中国大陸を統一した証しだと思っています。



長沙筆レプリカと鉛筆

現在も向島の三囲神社には、円山應挙（一七三三～九五）が描いた蒙恬將軍を顕彰する碑が建ち、昭和の中頃まで筆供養を兼ねた蒙恬祭が関係者で行われていました。考古学的遺物



清農堂主人
阿部信治
(あへしんじ)

として筆が発見されたのは、一九五四年のことで、湖南省長沙にある秦より前の春秋戦国時代の楚の貴族の墳墓からでした。この筆は、発掘された場所から「長沙筆」と名付けられています。

竹の先端を茶釜のように細かく割り、漆をつけた兎の毛を押し込み、絹糸で巻いて留めたもので、研究書にはその寸法が細かく記載されていますが、どうも実感が湧きません。

筆師の私はある時思いついて、その寸法通りのレプリカを同じ製法で作ってみました。出来上がった筆は、私たちが使っている鉛筆のサイズとほとんど同じで、人間の感覚というものは三千年前も今あまり変わらない事が実感出来ました。

日本人と筆

それでは、日本の筆の起源はどのようなものでしょう。

二〇一四年の四月に東京で公開されたキトラ古墳の壁画も、石室の漆喰の上に筆で描かれたものです。また、古事記編さん千三百年の昨年、それを記したという太安万侶（？～七二三）の墓誌から毛筆の跡が見つかり、話題になりました。いずれにしても、早い時代に漢字や仏教と共に筆が大陸から伝えられた事がわかります。

日本最古の筆は、正倉院の宝物の中にある天平用筆で、これは紙巻き法と呼ばれる古代の製筆法で作

られています。

筆は常に芸術や文化と共にありますが、長い間、それを享受出来るのは、公家や僧、武士など一部の人に限られていました。

筆が庶民の間で広く使われるようになり、筆師という職人が出てくるのは、千年後の元禄時代で、製筆法も改良され、画筆と書筆が分かれたのも、円山應挙が活躍したこの時代だったと言われています。

しかし現代にも繋がる日本画筆の系譜に決定的な影響を与えたのが明治維新（一八六七）でした。維新によって禄を食んでいた御用絵師は皆失業し、苦境に追い込まれていったのは、この「絲綢之路」（第七十二号）の岩絵具の項で東京藝術大学の荒井経先生が書かれている通りです。

明治の世になり、廃仏毀釈の運動も起き、西洋画の技法も導入されますが、一方で日本文化を再評価するフエノロサ（一八五三～一九〇八）や岡倉天心（一八六二～一九一三）を中心にした運動も起こります。それを道具類で支えたのが宮内得應（一八四三～一九一四）でした。鎖国から開放され、原毛が自由に輸入されるようになると、得應はその研究に励み、製筆法を改良し、時代に



宮内 得應

に合った様々な用筆を生み出していました。

現在でも広く使われている「削用」「天然則妙」「長流」など、また刷毛の改良や筆を連ねた連筆なども得應の仕事です。

私たちは、三代前の得應の仕事に継承し、現在も日本画筆を作り続けています。

略歴

清農堂主人 一九五二年生。
約四十年間、日本画筆製作に従事。
東京藝術大学・武蔵野美術大学等、非常勤講師。

財団の四半世紀の歩みを顧みて

文化・芸術の成熟度をみると、その国の本当のレベルがわかる、という説があります。すぐれた文化・芸術作品を生み出す環境をつくる大切さ。そして、それを後世に無事伝えることの大切さを認識したいと思います。

小宮 浩 (こみや ひろし)

財団専務理事

財団が進めてきたこと

当財団の基礎を創り、設立者のひとりでもあった平山郁夫先生の唱える「文化財赤字構想」のもとで活動を開始してから、二十六年の時が過ぎました。平山先生の理念の真髄は、文化による世界平和への貢献、文化による社会貢献です。この姿勢は現在もまったく変わることはありません。

財団が関わった大きな事業としては、中国の敦煌莫高窟の保存・修復のための専門家育成への協力があげられます。これは財団発足以来のテーマ事業として継続中です。同様のテーマとしては二〇〇六年から五年間、日中韓の三カ国で取り組んだシルクロード沿線の遺跡や文化財を保存・修復するための専門家を育成する事業があります。

こうした国際協力事業には、カンボジアのアンコールワット遺跡群の保存・修復支援やトルコのカマン・カレホユ

ック遺跡の調査への支援・協力等々があります。

内にあつては、一九九五年の阪神淡路大震災、二〇〇四年の新潟中越地震、二〇一一年の東日本大震災に際し、被災文化財の救済に大々的に取り組みました。特に東日本大震災の場合は、文化庁をはじめとする諸機関、様々な法人、個人と一体となって五年間、復興・救済支援事業を継続しています。今回は無形文化財も対象としていくところが大きな特徴と言えます。

通常の助成事業は大別すると、文化財保存修復助成事業、芸術研究助成事業、国際協力事業の三部門になります。過去二十五五年間におよそ一四〇〇件、三十八億円の支援を実施してきました。

国際協力事業の中で大きく取り上げたいものの一つに国際交流基金と共に取り組んでいる「日中韓文化交流フォーラム」があります。

このフォーラムは三カ国が持ち回りでホスト国をつとめ、毎年開催されており

これからの財団

民間の組織だからこそ出来ること。民間の組織でなければ出来ないこと。それは何か？これが今後の私たちの活動における課題でしょう。そのため試行錯誤は避けられないでしょう。しかし、何が起ころうとも平山先生の掲げた理想の「灯」を消すことなく邁進いたします。

文化・芸術の分野を手厚く保護、育成することは日本が名実共に先進国たる大きな証の一つになると思います。そうした観点からも、私たちはさらなる努力を積み重ねて活動内容の充実、拡大をはかる所存です。

ます。本年は十回目となります。開催国は韓国です。

昨今の日中、日韓の政治的環境は厳しいものがありますが、多くの苦難を乗り越えて文化の力をもって互いの友情、友好を促進しようとするフォーラムの関係者の努力は評価に値すると信じます。

当財団の歩んできた道の要所を書かせていただきましたが、活動の源となっているのは法人、個人を問わず、すべては皆さま方から寄せられた浄財です。

近年は日本を取りまく経済情勢も含め、高齢化社会への加速化等々、様々な要件の重なりによって寄付金の減少化が顕著となっております。こうした状況に歯止めを掛けるべく努力をいたしておりますが、問題解決までの道のりは遠いものがあります。

かつて文化庁はこう月報で報じています。

「文化芸術は、人々に大きな喜びや感動、心の豊かさや安らぎをもたらす心の資産であり、国境を越えて様々な価値観を共有する基盤となるもの。他国に誇る自国の文化芸術を持つことは、何物にも代え難い心のよりどころとなる。また、文化芸術の振興は持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤となるものであり、我が国の国力を高めるものとして文化芸術を位置付けておく必要……」（二〇一〇・七）

引用が長くなりましたが、反芻すると大なるもの覚えます。

*

文化を守り維持していくこと、芸術活動を助成すること、こうした活動を継続することは多くの皆さまの物心両面にわたる大きな御力が必要です。どうぞこれからも私どもの意をお汲み取りのうえ、御指導、御支援賜りますようお願い申し上げます。

定款第4条の定めに従い、次の事業を行いました。

平成二十五年度事業報告

■文化財保存修復助成事業（美術工芸）（敬称略・以下同）

- ①岩手県・鈴木茂壽 木造阿弥陀如来立像の修理
- ②東京都・明王院 木造如意輪観世音菩薩坐像修理
- ③石川県・財藩老本多藏品館 本多政重・長政関係資料附火事装束修理
- ④三重県・本宗寺 蓮如・如光上人連坐像の修理
- ⑤滋賀県・圓常寺 木造阿弥陀如来立像の修理
- ⑥大阪府・高倉寺 法起菩薩曼荼羅図の修理
- ⑦高知県・金林寺 木造薬師如来坐像の修理
- ⑧熊本県・錦町木上荒田地区 荒田観音堂木造釈迦如来坐像の修復（建造物）
- ①青森県・長者山新羅神社 本殿・拝殿の修復
- ②秋田県・常任院 真山の万体仏堂の修復
- ③山形県・熊野神社 本殿の修復
- ④茨城県・萬福寺 仁王門の修復
- ⑤群馬県・榛名神社 神宝殿（三重塔）の修復
- ⑥神奈川県・杉本寺 観音堂の修復
- ⑦山梨県・法泉寺



修復後の如意輪観世音菩薩坐像（明王院）



修復後の石井神社拝殿（新潟県）

- 経蔵及び輪藏付鉄眼版一切経の修復
- ⑧新潟県・北条町内会 石井神社拝殿の修復
 - ⑨福井県・比良野八郎右エ門 比良野家住宅離れ座敷の修復
 - ⑩岐阜県・横蔵寺 三重塔の修復
 - ⑪愛知県・徳興山建中寺 建中寺徳川家霊廟の修復
 - ⑫京都府・八坂神社 本殿の修復
 - ⑬奈良県・高鴨神社 攝社東神社本殿の修復
 - ⑭鳥取県・門脇匡彦 南門脇家住宅の修復
 - ⑮大分県・早吸日女神社 総門の修復
 - ⑯鹿児島県・佐多京子 佐多直忠家住宅の修復（有形民俗）
 - ①長野県・里山辺上金井町会 里山辺お船祭りのお船の修復
- 芸術研究等助成事業
- ①東京藝術大学美術学部彫刻科企画展「物質と彫刻―近代のアボリアと形見なるもの―」（東京藝術大学美術学部准教授 林武史）
 - ②土田英介個展「室内楽曲、ピアノ曲 歌曲を集めて」（東京音楽大学教授 土田英介）

- 配布先：都道府県教育委員会、美術館、博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布
- ②文化財保存修復支援カレンダー・基金の募金活動（二〇一四年カレンダー）
 - 募集期間：平成25年9月～平成26年1月
 - 製作題材：出光美術館所蔵国宝「伴大納言絵巻」現状模写作品（二年目）
 - 募金応募件数：2,393件（募金額7,670,964円）
 - ③日韓文化交流フォーラムの開催
 - 会期：平成25年11月14日（木）～17日（土）
 - 会場：日本（新潟県新潟市、佐渡市）
 - 行事：第9回日中韓文化交流フォーラム
 - 「地域文化の振興と国際交流の促進」
 - ④「妙高夏の芸術学校」の共催
 - 主催：妙高夏の芸術学校実行委員会
 - 共催：（公財）文化財保護・芸術研究助成財団、新潟日報社、妙高市他
 - 期間：平成25年7月25日（木）～28日（日）
 - 参加者：日本画（20名） 油彩画（26名） 水彩画（18名） デッサン・スケッチ（14名） 水彩画初心者（16名）計94名
 - ⑤講演会「シンポジウム・展覧会等の後援（ア）第8回「文化財保存・修復―読売あをによし賞」を後援
 - 主催：読売新聞社
 - 後援：文化庁、独立行政法人国立文化財機構他
 - （イ）「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅠ、レベルⅡを後援
 - 主催：特定非営利活動法人 文化財保存支援機構
 - 共催：独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館、特定非営利活動法人 たいとう歴史都市研究会
 - （ウ）文化遺産国際協力コンソーシアム

- シンポジウム「世界遺産の未来」を後援
- 主催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
- （エ）第7回 美の継承展」を後援
- 主催：（有）ライザ
- （オ）東日本大震災復興支援チャリティー企画
- 第15回「文化人・芸能人の多才な美術展」
- ～広げよう文化の輪・芸術は地球を救う！～を後援
- 主催：特定非営利活動法人「日本国際文化遺産協会」文化人・芸能人の多才な美術展実行委員会
- （カ）第63回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」中央行事「匠に学ぶワークショップ」 in 東京藝術大学 V o o r 11」を後援
- 主催：社会を明るくする運動「中央推進委員会他
- （キ）東京文化財ウォークを後援
- 主催：一般社団法人 木谷ウォーキング研究所
- 法人正会員（二十六社） 【五十音順】
- 朝日生命保険相互会社
- 株式会社 NHKエンタープライズ
- 株式会社 NKB
- 鹿島建設 株式会社
- 株式会社 講談社
- 株式会社 集英社
- セコム 株式会社
- 全日本空輸 株式会社
- 株式会社 高島屋
- 武田薬品工業 株式会社

二十五年度ご支援いただきました賛助会員の皆様

- ③中国彫刻史学形成期における早崎梗吉の活動に関する調査研究（東京藝術大学美術学部非常勤講師 大西純子）
 - ④和と洋の想を聴く（東京藝術大学音楽学部附属音楽高校教諭 高橋裕）
 - ⑤檀像様彫刻を中心とした二木彫像の構造技法研究（東京藝術大学大学院美術研究科教授 藪内佐斗司）
 - ⑥オーケストラ・プロジェクト2013（東京学芸大学教授 金田潮兒）
 - ⑦文化財の危機管理セミナー「陸前高田学校」～「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅡ・Bコースとして～（特定非営利活動法人文化財保存支援機構理事 増田勝彦）
 - ⑧アンドレア・デル・カスターニョ作「最後の晚餐」保存修復に関する調査研究（東京文化財研究所客員研究員 前川佳文）
 - ⑨千總所蔵小袖・裂類の保存と修復に関する調査研究第2期（女子美術大学芸術学部教授 岡田宣世）
 - ⑩国宝伴大納言絵巻現状模写研究（東京藝術大学美術学部教授 手塚雄二）
 - ⑪敦煌研究院・東京藝術大学 交流30周年記念事業（東京藝術大学美術学部教授 保科豊巳）
 - ⑫中国文化遺産研究院から 副研究員張曉彤（招致（東京文化財研究所保存修復科学センター）長 岡田健）
 - 国際協力事業
 - ①敦煌研究院から研究員2名（韓衛盟、傅鵬）招致（人材育成等の援助計画に関する覚書（一九九八年十二月十日）に基づく招致
 - ②ウスベキスタンにおける文化遺産保存修復技術実技講習（駒澤大学文学部非常勤講師 古庄浩明）
 - ③ネパールにおける資料保存修復研修の実施（学習院大学大学院非常勤講師 安江明夫）
- 株式会社 竹中工務店
- 株式会社 電通
- 東京ガス 株式会社
- 株式会社 東京ドーム
- トヨタ自動車 株式会社
- 日本写真印刷 株式会社
- 野村ホールディングス 株式会社
- 公益財団法人 東日本鉄道文化財団
- 株式会社 日立製作所
- 有限会社 丸栄堂
- 三井住友海上火災保険 株式会社
- 株式会社 三井住友銀行
- 三井物産 株式会社
- 株式会社 三越伊勢丹
- 株式会社 ミロク情報サービス
- 森ビル 株式会社
- 法人維持会員（十四社） 【五十音順】
- アサヒグループホールディングス 株式会社
- 大阪ガス 株式会社
- 関西電力 株式会社
- 株式会社 資生堂
- 洲本観光 株式会社
- 株式会社 精養軒
- 宗教法人 全昌院
- 大和建設 株式会社
- 千代田絨毯 株式会社
- 株式会社 東京マルイ美術
- 株式会社 なとり
- 浜名梱包輸送 株式会社
- 株式会社 平成建設
- 株式会社 横井春風洞

- ④ケン・ブルン遺跡の地形測量と若手考古学者の育成事業（キルギス国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所文化遺産部門長 Bakyt AMANBAEVA）
- ⑤名所絵によるアルメニアと日本の文化交流（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター）長 川野邊歩）
- ⑥古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究（東京文化財研究所保存修復科学センター）長 岡田健）
- ⑦アンコール遺跡群西トップ遺跡建築装飾部の修復・復元（奈良文化財研究所都城発掘調査部副部長 杉山洋）
- ⑧トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の保存、修復と若手専門家の養成（（公財）中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所所長 大村幸弘）
- ⑨外国人研修員（範奕瑩）の招致（中国、呼和浩特博物館蒙古壁画保護中心非常勤職員）
- 重点助成事業
- ①尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
- ①真如寺蔵 宝鏡寺門跡四体のうち本覚院宮御像の修復
- ②東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業
- 14ページの特集欄に掲載
- ③東日本大震災被災地復興支援事業
- ①ルツェルン・フェスティバル・アーク・ノヴァ松島2013（アーク・ノヴァ実行委員会委員長 梶本真秀）
- 文化財の保護及び芸術振興に関する出版物の刊行、講演会の開催、その他普及及び広報活動に関連した事業
- ①広報誌「絲綢之路」の発行
- 第72号（二〇一三夏）平成25年6月17日発行
- 第73号（二〇一三秋）平成25年10月15日発行
- 第74号（二〇一四新春）平成26年1月27日発行
- 発行部数：各2,000部

東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業の状況

■支援事業について

本事業につきましては、昨年(2011年)の広報誌二〇一三夏号(No.72)で特集を組み概要を報告しましたが、今回第二回目となります。東日本大震災から三年余が経過し、徐々に復興は進みつつありますが、いまだ支援の手を待っている文化財があります。時の経過とともに忘れられないような息の長い支援が必要です。

当財団がいままでにいただいた募金額(寄付金)と、これに基づき実施した支援事業数及び支援額(進行中を含む)を「2.募金(寄付)受け入れと支援事業の状況」として一覽表にしました。また、平成二十五年に支援した事業について「3.平成二十五年支援事業一覽」として取りまとめました。なお、本事業は平成二十八年度まで継続して実施する予定です。

2募金(寄付)受け入れと支援事業の状況

- 募金(寄付)及び支援の呼びかけは、当財団理事長の他に次に掲げる関係者とも連携・協力を図りながら幅広く実施しています。
- (1)文化庁長官による募金の呼びかけ
 - (2)日本サマスンとの連携による「平山郁夫・文化財赤字プロジェクト―東日本大震災被災文化財修復支援事業」
 - (3)ワールドモニユメント財団との連携による「東日本大震災被災文化財復旧支援事業(Save Our Culture (S O C))心を救う、文化で救う」(協力：文化庁、東京藝術大学)
 - (4)作家京極夏彦氏との連携

- ③岩手県・東前青年会 用具整備事業
- 【追加助成：無形文化財】
- なお、平成二十五年にバンクオブアメリカ・メリルリンチ様の支援により、左記のとおり追加助成を行いました。
- ①岩手県・小白浜町内会 衣装等整備事業
 - ②岩手県・南部藩壽松院年行司支配太神楽 用具整備事業
 - ③岩手県・両石虎舞保存会 備品整備事業
 - ④岩手県・神の沢鹿踊保存会 用具整備事業
 - ⑤岩手県・平田神楽保存会 幟整備事業
 - ⑥岩手県・田郷鹿子踊保存会 衣装等整備事業
 - ⑦岩手県・只越虎舞保存会 用具整備事業
 - ⑧宮城県・釜谷長面尾の崎法印神楽保存会 法印神楽伝承事業
 - ⑨宮城県・釜谷大般若経巡行保存会 被災用具新調事業
 - ⑩福島県・岡山鹿島神社かけ祭り保存会 水祭場基礎改修工事業
 - ⑪岩手県・荒川町内会 祭り用具整備事業
 - ⑫岩手県・田の浜大神楽保存会 衣装・用具整備事業
 - ⑬宮城県・山元町無形民俗文化財復興協議会 お天王さんまつり保存会復旧事業
 - ⑭宮城県・大曲浜獅子舞保存会 獅子頭復元事業



用具整備 (釜谷長面尾の崎法印神楽保存会)

(平成26年5月15日現在)

区分 年度	募金(寄付) の状況	支援事業の状況							
		文化財保存修復助成					文化財レスキュー助成		合計
		美術 工芸品	建造物	記念物 埋蔵文化財	無形文化財	計	美術工芸品 (レスキュー)	建造物 (ドクター)	
平成 23年度	544 274,999		1 1,000			1 1,000	1 40,000	1 40,000	2 41,000
平成 24年度	168 51,159	11 7,425	42 62,094	2 1,598	21 15,315	76 86,432	1 20,000	1 6,000	2 26,000 112,432
平成 25年度	109 28,453	7 3,000	32 52,200		17 17,938	56 73,138	1 5,000	1 4,000	2 9,000 82,138
平成 26年度	6 15,027	2 1,200	21 20,300	2 1,100	2 1,300	27 23,900			27 23,900
合計	827 369,638	20 11,625	96 135,594	4 2,698	40 34,553	160 184,470	3 65,000	2 10,000	5 75,000 259,470

上段：件数、下段：金額(千円)

3平成二十五年支援事業一覽 (美術工芸)

- ①宮城県・安国寺 木造阿弥陀如来坐像一軀修理工事
- ②福島県・程田自治会 木造聖観音菩薩立像修復事業
- ③福島県・金性寺 下岩崎の聖観音菩薩立像修理事業
- ④福島県・護真寺 本尊修復事業
- ⑤福島県・相馬市教育委員会 彫刻家佐藤玄々遺作品修復事業
- ⑥茨城県・應城山龍藏院 絹本着色「両頭愛染明王像」保存修理
- ⑦千葉県・長栄寺 木造十一面観音立像保存修理事業 (建造物)
- ⑧岩手県・盛合光徳

- 「盛合家」復旧・復元修理事業
- ②岩手県・世嬉の一酒造 「世嬉の一酒造場」雨樋等修復事業
- ③岩手県・村上和子 「村上家住宅」小屋土壁修復事業
- ④岩手県・吉度敷 「木造聖観音立像」取蔵庫地震被害復旧工事
- ⑤宮城県・祇劫寺 本堂災害復旧事業
- ⑥宮城県・天雄寺 観音堂解体調査及び保存修復
- ⑦宮城県・西光寺 大滝不動堂東日本大震災復旧工事
- ⑧宮城県・善入院 観音堂屋根葺替え修理工事
- ⑨宮城県・大沼善次郎 大沼養之丞家土蔵修理事業
- ⑩宮城県・気仙沼風待ち復興検討会 男山本店店舗復元事業
- ⑪宮城県・気仙沼風待ち復興検討会 角星店舗復元事業
- ⑫宮城県・気仙沼風待ち復興検討会 小野健商店土蔵修復事業
- ⑬宮城県・気仙沼風待ち復興検討会 武山米店修復事業
- ⑭宮城県・気仙沼風待ち復興検討会 三事堂ささ木修復事業
- ⑮宮城県・気仙沼風待ち復興検討会 千田家住宅修復事業
- ⑯宮城県・気仙沼・尾形家修復保存会 気仙沼・尾形家修復保存事業
- ⑰福島県・なかむらや旅館 なかむらや旅館 東日本大震災復旧工事
- ⑱福島県・渡辺一夫 東日本大震災登録有形文化財修復事業
- ⑲福島県・大國魂神社 本殿修復事業



修復後の白米阿弥陀堂 (福島県)

- ⑳福島県・隠津島神社 本幡山隠津島神社拝殿修復事業
- ㉑福島県・岩角寺 岩角山建物修復関連工事
- ㉒福島県・高橋昭一 高橋家住宅・土蔵修復事業
- ㉓福島県・島貫裕行 瀬上嶋貫本家土蔵(文庫蔵)修復工事
- ㉔福島県・白米行政区 白米阿弥陀堂屋根修復事業
- ㉕福島県・長田嘉郎 長田美容院建物群修復工事
- ㉖福島県・根本善隆 根本家住宅建造物群修復工事
- ㉗福島県・安田豊 松井薬局建造物群改修工事(倉庫蔵)
- ㉘福島県・大崎商店 大崎家住宅建造物修復工事
- ㉙千葉県・広済寺 鬼来迎面保存庫修理事業
- ㉚千葉県・観明寺 四脚門修理事業
- ㉛埼玉県・観音院 小淵山観音院仁王門修理事業
- ㉜埼玉県・行田商工会議所 旧小川忠次郎商店店舗及び主屋外壁補修他工事
- (無形文化財)
- ①岩手県・尾崎青友会 山車製作事業
- ②岩手県・片岸虎舞保存会 山車製作(組立式)事業



修復後の阿弥陀如来坐像(安国寺)

- 「レスキュー事業」
- ①東日本大震災文化財建造物復旧支援委員会 東日本大震災文化財建造物復旧支援事業(文化財ドクター派遣事業)(第2次)
 - ②福島県内被災文化財等救済事務局 福島県内被災文化財等救済事業



用具整備(東前青年会)

お願い

◎東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金をお願い

皆様のご支援、ご協力により東日本大震災により被災した文化財の救援・復旧支援事業につきましては、少しずつではありますが順調に進んでいます。

しかしながら、時の経過とともに関心が薄くなりがちですが、息の長い支援が必要です。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

*

- 銀行振込 ①銀行名 ②口座番号 ③名義
- ①三井住友銀行 上野支店
 - ②普通 6615496
 - ③(公財)文化財保護・芸術研究助成財団 ※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。
- 郵便振替 ①振替番号 ②加入者名
- ①001605・512319
 - ②(公財)文化財保護・芸術研究助成財団

- ※通信欄に「地震」とお書きください。
- なお、募金はクレジットカードからも可能です。詳細は当財団のホームページをご覧ください。
- ◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い (賛助会員)
- 当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。
- 法人正会員 年額(1口) 50万円
- 個人正会員 年額(1口) 1万円
- 維持会員 年額(1口) 10万円
- ※詳細は財団事務局へお問い合わせ願います。

今号の表紙

平山郁夫 「讃岐路」志度寺の塔 遠望



「讃岐路」志度寺の塔 遠望 1995年

この霊場を巡礼する人をさす。その起源については諸説あるが、今年は開創一二〇〇年になる。一番霊場の徳島県鳴門市の霊山寺に始まり、香川県長尾町にある第八十八番大窪寺で結願となる。

札所の中心は、空海の生誕地といわれる善通寺(七十五番札所)である。さぬき市の志度寺は八十六番札所にあたり、海浜に位置する寺院。こまで来れば巡礼と祈りの旅もまもなく終わる。平山画伯は「讃岐路」を描くため、香川県内の札所に何度も足を運ばれている。

編集後記

上野の杜は緑一色。一年の内でも最適な季節と言えます。やがて梅雨、そして夏へと季節は移ります。しかし、今年はエルニーニョの発生が心配されています。その影響で日本列島が冷夏に襲われないことを祈るばかりです。

これは朝日新聞が伝えたニュース(五月二十七日)ですが、東日本大震災から三年たった今日、福島県沿岸に伝わる子ども踊りや神楽など民俗芸能の六割ほどが活動を休止しているとのこと。ここでも原発事故の影響が大きな影を落としていることがわかります。

東日本大震災の被災文化財の救済・支援に関しましては、有形、無形を問わず実施してまいりましたが、五年計画の三年目に入ったこの事業が被災地の皆さまにとって、少しでもお役に立てば……と願っています。事務局一同、この想いを胸に日々取り組んでおりますが、復興という目的を達成するまでは前途多難です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

- 広報誌「絲綢之路」(シルクロード)
- 二〇一四年 夏号 通巻第七十五号
- ★平成二十六年六月十六日発行
- ★編集発行/公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎
- 〒110-0007 東京都台東区上野公園十二-1-50
- 電話 (03) 5685-1111
- FAX (03) 5685-1115
- URL: <http://www.bunkazai.or.jp/>
- E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp
- ★印刷 株式会社 東都工芸印刷